

第2回ワークショップでの意見概要について

1. 木崎地域の課題の整理について

- 木崎地域の課題や課題解決の方向性について、前回のワークショップで話し合った内容が反映されていると思う。
- 将来的に解体する建物は、倒壊などが起こらないようにできるだけで解体できるという。
- 廃校後の体育館などの利用について、地域から要望を出しても、様々な条件が付くことで実現することが難しい。
- 近年、住民の地域への思いが希薄になっていくと感じているが、地域を衰退させないために、若い世代が愛着を持って地域に関われるようになること。

2-1. 対策案について(笹山小学校跡地)

- 民間企業でなければ笹山小学校跡地の広い建物を維持するのは難しいと思うので、民間活力を導入できるとよい。
- 近年の社会状況を踏まえると、笹山小学校跡地への企業誘致は難しいのではないかと、この状況下で地域からの条件を付けて更に買い手がつかず、建物が使われなまま廃墟化してしまうのではないかと。
- 企業を誘致する場合には、地域が望む条件に合った企業が来るには限らない。ビジネスが優先となり、施設を住民のために活用するという視点から、住民にとってのメリットが少なくならないか。事例を見てもスポーツや子育てなどの地域のための施設は、民間ではなく行政が運営しているケースが多い。
- 施設の利用方法は企業次第になるので、ワークショップの意見交換が無駄になるのではないかと。もし、どこか手を挙げている企業があるなら情報を共有してもらい、具体的な活用方法の話をした方がよいのではないかと。
- これだけの規模の施設を運営するには手間やコストがかかるので、地域による運営は難しいのではないかと。
- 民間に売却する以外に指定管理制度や補助金制度を利用した運営はできないのか。施設全体の運営は難しくても、地域でNPO法人を立ち上げ、市からの補助を受けて体育館だけを運営し、避難所やスポーツ施設としての機能を維持できないか。
- プライバシーの確保や三密対策などを考えると、避難所には従来よりも広い面積が必要になるのではないかと。笹山公民館では十分な面積の確保が難しく、木崎小・中学校は笹山地域から距離があるので、旧笹山小学校をこれまで通り避難所として利用できること。
- 市が旧笹山小学校を避難所として維持するのが難しいことは理解できるが、民間に売却しても、災害時などには避難所として開放できるようにしてほしい。緊急時の一時的な避難所でも構わないので利用できること。
- 誘致した企業と災害時には避難所として利用する都合が得られても、これまでの避難所運営とは異なる点が出てくるのではないかと。民間の建物となった場合、避難所の運営主体はどことになり、運営はどう変わるのかなどを明確にしてほしい。
- 旧笹山小学校が避難所から外され、木崎小学校は水害の影響を受ける可能性があることを考えると、まず地域全体の避難所の方針を定め、そのうえで旧笹山小学校の活用方法を検討する必要があるのではないかと。地域全体で避難所が足りないのではないかと。
- 地域の人達が地域に根ざした活動に利用することで、地域の活性化に貢献するような施設を将来に残せること。
- カフェや図書館、高齢者の運動や談話の場、ワークショップや作品展展示のスペースなど、多目的な利用ができ、地域の人々が気軽に訪れられ、住民の生きがいが創出につながる施設ができること。
- 地域活性化のためには人が集まる機能やサービスが必要ではないかと。例えば、市が農業特区であることを生かした農業工場などを誘致し、工場見学や学校の作りを生かした展示などを行えば人を呼ぶことができるのではないかと。
- 東港に豪華客船が来航した際の屋上やシャワーの開催など、北区の情報を発信するアンテナショップを設けられたい。そのように活用できれば、歩道整備や除雪を行政が行ってくれることで地域の負担が減ったり、北区の魅力を広く知ってもらえるのではないかと。
- 週末や客船が寄港している時の集客は一時的なものなので、恒常的に人が集まる場所になるように、自然環境も含めた北区の良さを伝える機能が導入できるとよい。

- 体育館を改築したことや、今までの利用者の利便性を考えると、体育館やグラウンドは広くてきれいなので、今まで通り野球やバレーなどのスポーツ拠点として使用できるとよい。そうならば、災害時に体育館を避難所として利用できるのではないかと。
- 地域の活性化のためには、地域に子どもが増えることが不可欠であると思う。木崎地域には子どもたちが自由に遊べる場所がないので、「子ども創造センター」のような施設や広い公園、子育て支援施設などができるとよい。大学が近いので、「ゆいぽーと」のような研修室や子どもが遊べる機能が複合している施設も考えられるのではないかと。地域への来訪者が増えることで、木崎地域に住みたいと思う人も増えるのではないかと。
- 木崎地域が住みやすい、子育てしやすい地域だと思ってもらえるような機能やサービスがあると定住につながると思う。そのためには、笹山小学校跡地に公園や子どもが遊べる場所があるだけでなく、様々な用事が済ませられる商業施設等が周辺にできることが望ましいのではないかと。
- 笹山小学校跡地を空きスペースと捉えると、利用したい人が好きに使い方を考えられる貸しスペースとして活用できるのではないかと。
- 県や市役所の分館にしたり、市の関係機関に利用してもらおうのよいのではないかと。
- 笹山小学校では北区特産の「しるきーも」とのコラボ商品を考えて販売していた。そういう背景を踏まえた活用方法が考えられると、小学校だった時代の活動とのつながりができてよいのではないかと。
- 体育館と校舎は切り離して考え、管理運営や用途を別々に検討するというのではできないか。例えば体育館は市が維持して、平時はスポーツ施設、非常時は避難所として使用する。校舎は民間に売却する、売却することも考えられる。ただ、こういう条件が付くと、校舎が古くなっていることもあり手を挙げる企業がないかもしれない。
- 活用案はいずれも中長期的な取り組みだと思うので、短期的な活用もできると、施設を放置したままにせず、住民に活用の検討が進んでいることが伝わるのではないかと。校舎はリモートオフィスやシェアオフィスとして利用し、体育館はそのままスポーツ施設として他の体育館利用者に三密対策などで使ってもらえるとよい。
- ワークショップ以外でも地域の意見を聞き、地域の意向を汲んでくれる企業に利用してもらえるとよいので、売却を急がなくてほしい。
- 旧笹山小学校は閉校以来、整備が行われていないため、景観が悪くなっている。このままでは購入が見つかりにくくなるのではと懸念しているため、早めに方向性を決めてほしい。

2-2. 対策案について(横井の丘ふるさと資料館)

- 横井の丘ふるさと資料館の機能は北区郷土博物館に移転しており、建物も耐用年数を超えていて危険なので、解体するのはやむを得ないのではないかと。
- 地震などの災害はいつ発生するかかわからないので、近接する保育園の子ども達や保護者の安全を確保するためにもできるだけ早く解体してほしい。
- 資料館の収蔵品は地域の貴重な資料なので、保管場所を市でしっかり確保してほしい。保管場所が確保されないとい解体に着手できず、建物がそのまま放置されてしまうのではないかと心配である。
- 資料館に残るはた織機や木舟などの展示品や資料は、笹山小学校に収蔵したり、市内の博物館に寄贈することができないか。
- 資料館を解体した場合、その後の跡地活用についても地域の意見を聞いた上で進めてもらいたい。

3. その他

- 民間活用の検討に必要な情報として、市街化調整区域にかかる制限がどのようなかを明確にしてほしい。
- これまで旧笹山小学校のグラウンド整備や学校周辺の歩道の除雪を住民が行ってきたが、負担が大きいのでは減らせるとよい。
- 新しい木崎ひまわりクラブ周辺の道や駐車場が砂利で使づらいので舗装してほしい。

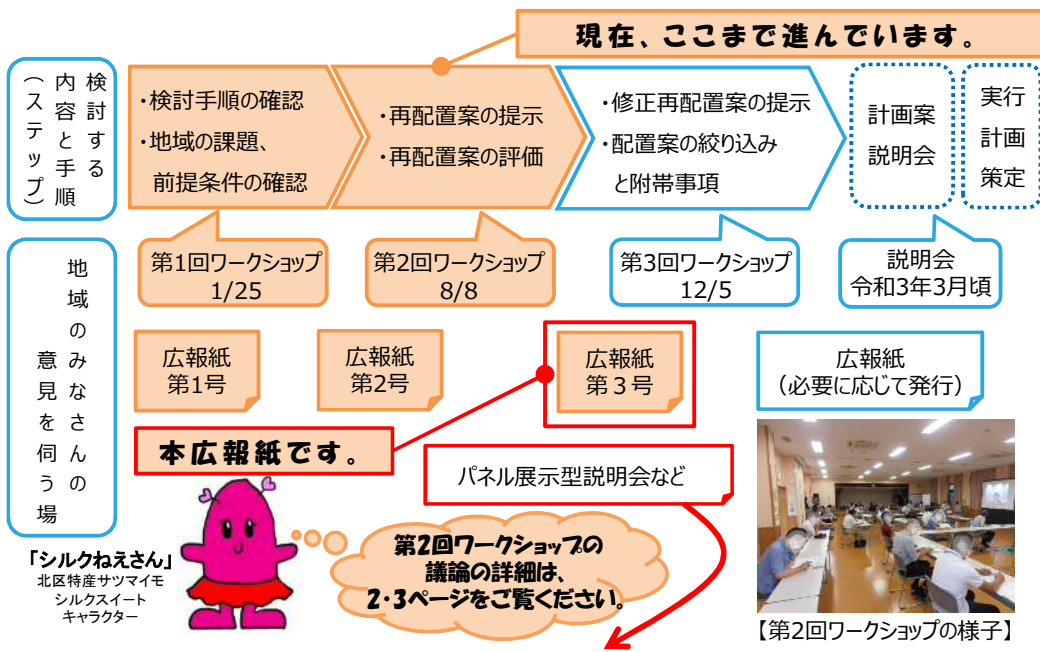
新潟市 財産経営NEWS 広報紙 第3号

一緒に考えませんか？ 木崎地域のまちづくり ~公共施設のこれから~

木崎中学校区では、児童数の減少に伴い小規模校となっていた笹山小学校と木崎小学校の統合を契機として、笹山小学校跡地の活用など、木崎中学校区の公共施設のあり方について、地域のみなさんと市がともに考えるワークショップ（WS）を令和2年1月から開催しています。

ワークショップをはじめ、「本広報紙」などにより、地域のみなさんから様々な意見を伺っています。市は、いただいたご意見をもとに、地域の公共施設の将来のあり方を示す「木崎地域実行計画」を策定します。

木崎地域の公共施設のあり方について検討を開始しています！



パネル展示型説明会(オープンハウス)を実施します！

開催日時：令和2年10月17日(土) 10時～17時 (パネル展示は10月13日～18日まで)
 場所：木崎コミュニティセンター ホール・談話コーナー
 ご来場お待ちしております。

ワークショップ参加者のみならず、広く市民のみなさんからのご意見を収集する機会として、オープンハウスを開催します。会場では、市の取り組みやワークショップの議論の内容など、様々な情報をパネル展示します。会場では、担当者のご質問やご意見を承ります。お気軽にお立ち寄りください。

< 発行者 >
 地域別実行計画コミュニケーション事務局(北区地域総務課・財務部財産活用課)
 郵便 〒950-3393 新潟市北区葛塚3197番地 電話 025-387-1175
 メール chiikisomu.n@city.niigata.lg.jp FAX 025-387-1020

第2回ワークショップでの議論の概要

○第1回ワークショップでは、笹山小学校の跡地について地域の関心が高く、笹山小学校の跡地活用のいかんによって、木崎地域全体の課題に大きく影響が生じるものと認識し、以下のように整理しました。

【木崎地域全体の課題】

視点	木崎地域全体についてのワークショップ意見
木崎地域の活性化	市街化調整区域が多く、他地域から移り住みたくても家を建てられないことがある。地域外の人を広く受け入れられるようになるとうい。 農地が多いのがこの地域のメリットなので、パイプスや港に近いという交通の便の良さを活かした民間活用により、農地が活用できるとよい。
交通利便性の確保	地域内には人口が少なくインフラ整備が整っていない地区や近隣に店舗がなくて買い物に不自由な地区がある。 市内中心部との間のバスが少なく駅も遠いため、車の運転ができない人は移動しづらい。
コスト縮減	今後人口が減少して少子高齢化が進むと共に、公共施設も老朽化していく。不採算の施設は整理していく必要がある。

【笹山小学校跡地の活用についての課題】

視点	笹山小学校の跡地活用についてのワークショップ意見
民間活力による木崎地域の活性化	交通の便などの立地条件もいいため、公募などを行い民間で活用してはどうか。 企業から応募があった際には、地域のイメージを壊さないように配慮し、地域の意見を要望することも必要があると思う。
	東港との物流拠点になり得る場所に立地しており、工業団地もあるので、植物流工場やイベント会場などとして活用できるのではないかと。
	体育館と校舎を別々に貸し出ししたり、シェアオフィスなどの多目的スペースとして活用すれば、企業の事業所、地域特産物加工工場、子どものための施設などに活用でき、選択肢が広がるのではないかと。
教育機能の維持	商業施設と教育施設を複合したり、専門学校を誘致したりして、今後も教育の場として使っていけるとよい。

視点	笹山小学校の跡地活用についてのワークショップ意見
スポーツの場、健康増進を目的とした場の確保	学校の教室を利用して、講座や卓球などの軽いスポーツができ、高齢者が気軽に立ち寄れる場所が作れるとうい。 スポーツ団体が活動場所を確保するのが難しくなっているため、今後も体育館をスポーツに利用できるとよい。
子どもの遊び場の確保	放課後に小学生が過ごせる場所や小学生と幼児を一緒に連れて行ける遊び場が地域にないので、安心して自由に体を動かせる場所ができるとよい。
安全性の確保	今後も避難所機能を維持することを最優先に考えた方がよい。 市で確保している避難所の収容人数では災害時に足りなくなるのではないかと。

○第2回ワークショップでは課題をもとに、サービス機能が既に確保されている部分や不足部分について検討を行い、複数の対策案を市より提示し、評価できる点、懸念される点について議論を行いました。

再編案

<活用方策>

【基準案】

- 築年数が浅い建物が多いため、現状の建物を残したまま売却

【A案】

- 産業振興に資する機能を誘致

【B案】

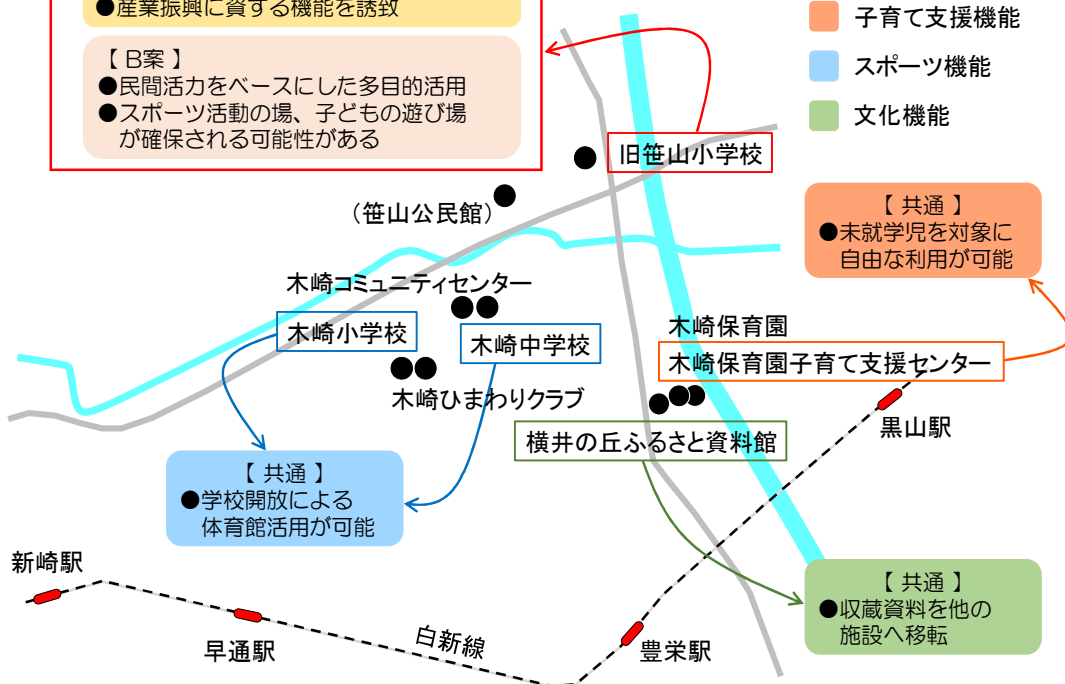
- 民間活力をベースにした多目的活用
- スポーツ活動の場、子どもの遊び場が確保される可能性がある

- 現状有姿売却
- 産業振興機能
- 民間活力ベースの多目的活用
- 子育て支援機能
- スポーツ機能
- 文化機能

- 【共通】未就学児を対象に自由な利用が可能

- 【共通】学校開放による体育館活用が可能

- 【共通】収集資料を他の施設へ移転



評価の基準案：現状有姿で売却する案

<笹山小学校跡地>

- 笹山小学校は築年数が浅い建物が多いため、取り壊さずに現状の建物を残したまま利用条件を付けずに売却することで有効活用を図ることができる。
- 利用条件を付けずに売却するので、A案やB案と比較し、早期に民間による活用を開始できる可能性が高い。
- △市街化調整区域であり、土地利用が制限される。
- △避難所機能確保の条件を付して民間に売却することは可能だが、民間の事業内容によっては制約と捉えられ、購入意欲が低下する可能性もある。

A案：立地条件を活かした企業誘致を行う案

<笹山小学校跡地>

- 東港物流団地、東港工業団地と近接しており、地の利を活かして企業を誘致する。
- 地域経済への貢献、雇用の拡大が期待できる。
- 既存建物を活かした民間事業者などによる事業提案を想定。
- △市街化調整区域であるため、土地利用が制限される。
- △避難所機能確保の条件を付して民間が活用することは可能だが、提案の自由度が下がる可能性がある。
- △跡地の民間活用は現段階ではあくまで想定であり、今後公募の状況により実現性を担保できない可能性がある。

B案：民間活力をベースにした多目的活用を行う案

<笹山小学校跡地>

- 既存建物を活かした民間事業者などによる事業提案を想定。
- 体育館と校舎を別々の事業者等に貸し出し、シェアオフィスやチャレンジジョブなどの多目的スペースとして活用する。
- 事業者の提案内容によっては、軽運動やスポーツの場、教育機能の場、子どもの遊び場として活用される可能性がある。
- △市街化調整区域であり、土地利用が制限される。
- △避難所機能確保の条件を付して民間が活用することは可能だが、提案の自由度が下がる可能性がある。
- △跡地の民間活用は現段階ではあくまで想定であり、今後公募の状況により実現性を担保できない可能性がある。

再編案などについてご意見を
お寄せください。



各案共通

<横井の丘ふるさと資料館>

- 収集資料を他の施設などに移転し、施設の廃止後、将来的に解体する。
 - 旧木崎ひまわりクラブ
 - 木崎小学校敷地内に令和元年度にひまわりクラブが新築され、移転が完了しているので、旧クラブは将来的に解体する。
- ### <地域内のその他施設>
- 配置方針に照らし合わせ、適正な配置であることから、今後も適切に維持する。
 - 令和2年4月1日付で笹山公民館を新たに指定避難所とした。